

ISSN 0910-7282

大阪府立図書館紀要

第36号

2007年3月

Bulletin of Osaka Prefectural Library No. 36

大阪府立中之島図書館

大阪府立中央図書館

府立図書館紀要第 36 号の発刊にあたって

大阪府立中之島図書館長 鳴澤 成泰

昨年、実に 8 年ぶりに再刊されたが、今年も順調に発行することができた。これも関係者の努力と、執筆に当たった司書諸君、あるいは OB の皆さんの日頃の研鑽の賜物である。感謝をしたい。

図書館の業務については、図書館界の議論と一般的な感覚には相当にずれがあるように思う。一般の人はそれぞれの人が直接経験した図書館というものから得た実感により評価しているのではなかろうか。

幼い頃に図書館に親しんだ人はそこに自分の興味関心を満たしてくれる宝物のような存在を思い描いているかもしれない。学校の調べ物授業や仕事の調べ物など分からないことを調べにきて、分かった人と分からなかった人、というよりは十分な深みに到達できなかった人とでは図書館というものについての感覚は自ずと違う。

自分の持っている書籍や書店の書籍に比べはるかに大量で、探しやすいように整理されている様子を良く見れば、その価値は一目瞭然であるが、そのような状態は自ずと出来ているのが当然でそれが図書館であると思われている。

その陰で日頃から司書が努力して収集し、整理していること、さらに時代の流れや興味関心の移ろいをカウンター業務やレファレンスの相談を受けることにより肌身で感じ、より良いサービスを提供しようと日々研鑽し、学習していること、使いやすい情報シートを作成し提供していることを認識し評価する人はおそらくごく少数である。

以心伝心という言葉があるが、それは誤解を生むだけだ。積極的に説明し、理解を求めなければ正当な評価は得られない。時間空間を超えて情報を伝えるには言葉にしなければ伝わらない。そして文字という形で書きとめなければ知識の高度化は望み得ない。紀要はそういう意味では図書館としてまとめ公表する図書として重要な存在である。

今回掲載されている古文書の翻刻などは専門的分野ではあるが、所蔵する古文書を誰でも読めるようにする地道な努力の現れである。これらが文字となり出版物となることにより、積み重ねられ、時を経て大きな成果を生み出すこととなる。また新たな取り組みをまとめ評価したものもある。これらは同様の業務を進めようとする人々に参考になることだろう。

紀要は図書館司書が業務の傍ら、取得した知識や整理された資料を完成された形ではないかもしれないが、書留め広く公表しようとするものである。前号からインターネットで公表しており、一部の専門機関だけでなく広く閲覧できるようになった。図書館に関心を持つ方も持たない方もぜひ図書館の司書が行っている活動の一端をこの書物の中に見ていただきたい。そしてご意見をいただければ幸いである。

「大阪府立図書館紀要 36号」

府立図書館紀要第36号の発刊にあたって 鳴澤 成泰
(中之島図書館長)

目 次

曾侯乙墓を訪ねて	鳴澤 成泰	(3)
行政支援に関する文献の紹介	日置 将之	(16)
おもちゃ絵画家・人魚洞文庫主人川崎巨泉のおもちゃ絵展とその画業の 周辺について	森田 俊雄	(23)
「子どもの本を読む会」を中心とした大阪府立図書館児童サービス関連 年表	子どもの本を読む会 36年史記念誌編集委員会	(74)
中之島図書館蔵 一枚摺仮目録	佐藤 敏江	(110)
翻刻 [畿内巡り歌日記]	大北 智子 高萩 綾子 山田 瑞穂 小笠原弘之 佐藤 敏江	(143)
翻刻 『浪華奇談』怪異之部	田野 登	(156)

編集後記